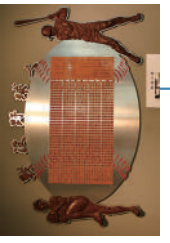
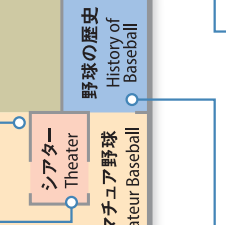
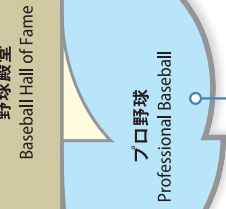
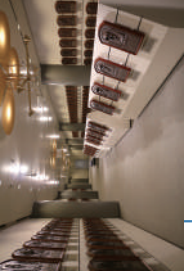


館内案内図



企画展などを行います。

野球界の功労者を選出し「野球殿堂入り」として表彰しています。格調ある雰囲気の中で、肖像レリーフがその功績を伝えています。



150インチスクリーンで大迫力の映像をご覧いただけます。



少年野球から高校・大学・社会人までアマチュア野球を紹介、女子野球コーナーもあります。



球中に残る各選手のコーナー。大記録を築いた各選手のバットやクラブなどを展示しています。



プロ野球12球団の現役選手のユニホームやバット、クラブなどを展示しています。



話題性のある資料や新着資料等をタイムリーに展示します。

ミュージアムショップ
当館オリジナル商品をはじめ、さまざまな野球グッズを販売しています。来館の記念にいかがでしょうか。

オンラインショップはこちら

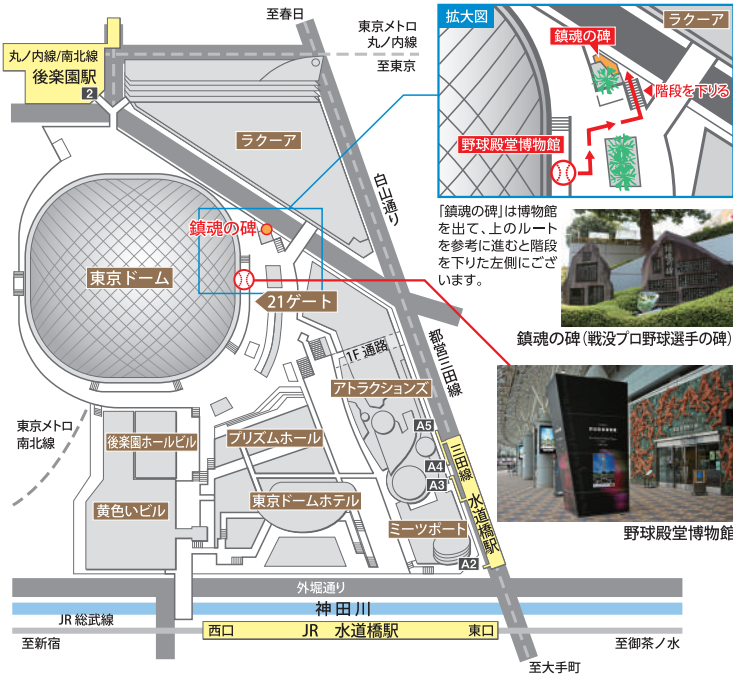


特集展示などを開催。各種イベントは、ここで開催します。

蔵書検索はこちら

野球を中心に約5万冊の本や雑誌を所蔵する野球専門図書館。プロ野球の公式記録や高校野球連盟史、大学野球リーグ戦パンフレット、外国語の資料などもそろっています。

ここにスタンプを押してください！



拡大図

「鎮魂の碑」は博物館を出て、上のルートを進むと階段を下りた左側にございます。



場所	東京ドーム21ゲート右	入館料	大人 800円(700円) 高・大学生 500円 小・中学生 200円(150円) 65歳以上 500円 ※()内は20名以上の団体
開館時間	10:00~17:00 ※東京ドームでのプロ野球開催日は18:00まで ※入館は閉館時間の30分前まで ※再入館はできません。 ※休館日及び開館時間に変更となる場合がありますので、最新の情報は当館ホームページでご確認ください。	休館日	月曜日(ただし祝日、東京ドームでのプロ野球開催日、春・夏休み期間中は開館) 年末年始(12月28日~1月1日)

公益財団法人
野球殿堂博物館
〒112-0004
東京都文京区後楽1-3-61
TEL. 03(3811)3600



博物館 ✉ @BaseballHOF1959
図書室 ✉ @librarybaseball
YouTube 野球殿堂博物館【公式チャンネル】

The Baseball Hall of Fame and Museum 2026



公益財団法人 野球殿堂博物館
2026年殿堂入り



競技者表彰 エキスパート表彰

KURIYAMA Hideki
栗山 英樹

1961年4月26日生 東京都出身

日本ハム監督からWBC世界一の監督へ
1984年東京学芸大を卒業後、ドラフト外でヤクルトに入団。89年には外野手としてゴールドグラブ賞を受賞する。2012年に北海道日本ハムファイターズの監督に就任すると、同年リーグ優勝を果たす。13年に入団した大谷翔平を投打「二刀流」として育成、起用する。16年には、球団として10年ぶり3度目となる日本一を達成。日本ハムの監督を退任後、21年に野球日本代表監督に就任し、23年のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)では、チームを3大会ぶり3度目の世界一へと導いた。



Hall of Fame 1959-2026



野球殿堂は、日本の野球の発展に大きく貢献した方々の功績を永久に讃え、顕彰するために1959年に創設されました。
2026年までに殿堂入りされた方々は223人です。

- 1959** 正力松太郎 日米野球を成功させ巨人を創設
平岡 兼 我国初の野球チームを結成
青井 鋭男 米チームを破った一高投手
安部 磯雄 学生野球の父
橋戸 信 都市対抗野球大会を創設
押川 清 初のプロチーム「日本運動協会」を創設
久慈 次郎 早大・函館オーシャンの名捕手
沢村 栄治 初期プロ野球界不滅の大投手
小野三千麿 対大リーグ初の勝利投手
- 1960** V・スタルヒン プロ野球初の300勝投手
河野安通志 早大初渡米後フイロアップ投法を導入
桜井彌一郎 第1回早慶戦勝利投手
飛田 忠順 穂洲の名で健筆をふるった早大監督
- 1962** 池田 豊 学生・プロの名審判
市岡 忠男 職業野球連盟初代理事長
- 1963** 中島 治康 プロ野球初の三冠王
- 1964** 若林 忠志 七色の変化球を投じた頭脳派投手
宮原 清 社会人野球協会初代会長
- 1965** 川上 哲治 打撃の神様、V9達成の巨人監督
鶴岡 一人 南海黄金時代を築いた名監督
井上 登 第2代コミッショナー
宮武 三郎 投打に活躍した学生野球のヒーロー
景浦 将 猛打タイガースの強打者
- 1966** 守山恒太郎 一高の名サウスポー
- 1967** 腰本 寿 慶大黄金時代の名監督
- 1968** 鈴木惣太郎 プロ野球草創期日米野球の交流に尽力
田辺 宗英 後楽園スタジアム第4代社長
小林 一三 宝塚運動協会・阪急球団結成
- 1969** 刈田 久徳 華麗な守備の名二塁手
三宅 大輔 巨人、阪急の初代監督
田部 武雄 攻走守揃った天才的プレーヤー
森岡 二朗 日本野球連盟初代会長
島田 善介 慶大・三田倶楽部名捕手
有馬 頼寧 東京セネターズを結成
- 1970** 天知 俊一 中日監督でシリーズ制覇
二出川延明 初代パ・リーグ審判部長
田村駒治郎 松竹ロビンスオーナー
直木松太郎 野球規則を本格的に翻訳出版
中馬 庚 ベースボールを「野球」と訳す
- 1971** 小西 得郎 独特の話題で人気を博した名解説者
水野 利八 独自の生産・改良に尽力
- 1972** 石本 秀一 広島カープ初代監督
中野 武二 審判の権威と信頼を確立
太田 茂 運動記者の草分け
- 1973** 内海 弘祐 明大野球部長
天野 貞祐 学生野球協会第2代会長
広瀬 謙三 スポーツ記録の第一人者
- 1974** 藤村富美男 猛打の初代マスタータイガース
藤本 定義 29年で5球団を指揮した名監督
野田 誠三 甲子園球場の設計工事責任者
- 1976** 中上 英雄 プロ野球完全試合達成第一号
小泉 信三 学徒出陣社行早慶戦実施

- 1977** 水原 茂 巨人第2期黄金時代の名監督
西沢 道夫 14歳でプロ入り、投打に活躍
森 茂雄 早大監督で9回優勝
西村 幸生 草創期のタイガースを支えたエース
- 1978** 松本謙治郎 初代タイガース主将、猛打で沢村と対決
浜崎 真二 48歳で投げた小さな大投手
伊丹 安正 早大の頭脳的名捕手
吉原 広喜 巨人第1期黄金時代の強肩捕手
岡田源三郎 全ポジションを守った明大万能選手
- 1979** 別所 毅彦 310勝をあげた南海、巨人のエース
平沼 亮三 東京六大学野球連盟第2代会長
谷口 五郎 大正時代の早大エース
- 1980** 大下 弘 “青バット”の天才打者
小鶴 誠 シーズン51本の本塁打王
千葉 茂 “猛牛”といわれた巨人名二塁手
- 1981** 飯田 徳治 1246試合連続出場
若本 義行 神主打法で1試合4本ホーム
佐伯 達夫 第3代高野連会長
小川正太郎 社会人野球協会結成に貢献
- 1982** 鈴木 龍二 セ会長を長年務め、球界の発展に尽力
内村 祐之 学生野球憲章制定に尽力
- 1983** 三原 脩 “魔術師”と称された名監督
内村 祐之 第3代コミッショナー
- 1984** 桐原 真二 早慶復活に尽力した慶大主将
- 1985** 杉下 茂 フォークボールの大投手
白石 勝巳 巨人初期黄金時代の名遊撃手
荒巻 淳 「火の玉投手」と呼ばれたパ・リーグ初代新人王
鈴木 啓示 早大で首位打者3度のスラッガー
山内以九士 野球規則・記録の研究、整備に貢献
- 1986** 中河 美芳 名物の守備で活躍した投手兼一塁手
松方 正雄 タイガース初代会長
- 1987** 藤田 信男 法大初優勝監督
山下 実 慶大黄金時代の強打者
- 1988** 長嶋 茂雄 “神宮の星”から「マスタープロ野球」へ
別当 薫 天性の好打者、4球団の監督歴任
西本 善雄 監督歴20年、8度のパ・リーグ優勝
金田 正一 400勝、4490奪三振
横沢 三郎 プロ野球草創期の名審判
芥田 武夫 早大の名外野手
永田 雅一 東京球場をつくる
- 1989** 島 秀之助 初代セ・リーグ審判部長
野村 克也 戦後初の三冠王捕手
野村 二郎 戦長28回完投の鉄腕投手
池田 恒雄 出版活動を通じ、野球界の発展に貢献
伊達 正男 大リーグに挑んだ早大の鉄腕投手
- 1990** 真田 重蔵 ノーヒットノーラン2度達成
張本 勲 広角打法で3085安打達成
佐伯 勇 近鉄ファアローズオーナー
- 1991** 牧野 茂 高度なチームプレーを確立
筒井 修 選手から3000試合出場の名審判へ
島岡 吉郎 神宮を沸かした名物明大監督
中澤 良夫 春夏甲子園大会の基盤をつくる
- 1992** 廣岡 達朗 セ・パ両リーグで日本一監督
坪内 道則 1000試合、1000安打第一号
吉田 義男 今牛若丸と呼ばれた名ショート
吉田 正男 中京商業夏の甲子園3連覇投手
- 1993** 稲尾 和久 シーズン42勝をあげた西鉄の鉄腕エース
村山 実 2代目マスタータイガース

- 1994** 王 貞治 一本足打法の世界のホームラン王
与那嶺 要 ハワイの日系二世 三拍子揃った名外野手
廣岡 知男 野球のオリンピック参加に貢献
- 1995** 杉浦 忠 日本シリーズ全4戦全勝の南海エース
石井藤吉郎 アマ球界の強打者から全日本監督へ
呉 昌征 後足、強肩の名外野手“人間機関車”
村上 貴 プロ野球草創期の阪急球団代表
- 1996** 藤田 元司 巨人のエースから監督へ
衣笠 祥雄 2215試合連続出場の“鉄人”
牧野 直隆 第4代高野連会長
保坂 誠 日本初ドーム球場建設
- 1997** 大杉 勝男 両リーグで1000試合、1000安打達成
山本英一郎 国際派の野球人として活躍
- 1998** 中尾 碩志 速球派から技巧派へ、通算209勝
井口新次郎 和歌山中、早大の名選手
- 1999** 中西 太 “怪童”と呼ばれた本塁打王
広瀬 叔功 名外野手で盗塁王
古葉 竹識 カープの黄金時代を築いた名監督
近藤 貞雄 投手分業制を導入
吉國 一郎 第9代コミッショナー
- 2000** 米田 哲也 949登板、350勝の“ガソリンタンク”
福島慎太郎 パ・リーグ会長を2度務めた
- 2001** 根本 陸夫 西武黄金時代の基礎を築く
小山 正明 抜群の制球力で歴代3位の320勝
武田 孟 日米大学野球開催に尽力
長谷川良平 広島を支えた小さな大投手
- 2002** 山内 一弘 大毎ミサイル打線の中心打者
鈴木 啓示 近鉄一筋、歴代4位の317勝
福本 豊 攻走守三拍子そろった盗塁王
田宮謙次郎 15シーズンで打率3割以上7回
中澤不二雄 パ・リーグ初代専任会長
生原 昭宏 日米野球交流の中心的役割を果たす
F・オールド 日本の野球技術向上に尽力
正岡 子規 野球を愛した明治の俳人・歌人
- 2003** 上田 利治 熱血指導で阪急を常勝チームに
関根 潤三 投手と野手でオールスター出場
松田 耕平 大リーグを手にし球団改革を推進
H・ウィルソン 明治5年に野球を伝えた“日本野球のルーツ”
鈴木 栄 軟式ボールを考案し野球の普及に尽力
- 2004** 仰木 彬 「イチロー」を誕生させた名監督
秋山 石登 大洋初の日本一に貢献した大エース
- 2005** 村田 兆治 豪快な“マスカリ投法”で大活躍
森 祐典 日本一3連覇を2度達成した名監督
志村 正順 野球人気に貢献した名アナウンサー
- 2006** 門田 博光 怪我を克服し、史上最年長MVPに
高木 守道 攻走守三拍子そろったバックスの名手
山田 久志 独特のサブマリン投法で通算284勝
川島 廣守 プロ・アマの協調体制を加速させる
豊田 泰光 西鉄黄金時代にクリーンアップを打つ
- 2007** 梶本 隆夫 9連覇奪三振の阪急名左腕
松永 伶一 優れたアマ指導者でロス五輪優勝監督
- 2008** 山本 浩二 “マスターヘル”と呼ばれた広島の4番打者
堀内 恒夫 ルーキーで16勝をあげエースとしてV9に貢献
嶋内 清一 夏の甲子園の準決勝、決勝でノーヒットノーラン
- 2009** 若松 勉 生涯打率.319の「小さな大投手」
青田 昇 「じゃじゃ馬」と呼ばれたホームランバッター
大社 義規 野球とチームを愛した日本ハム初代オーナー
君島 一郎 日本野球発祥の研究をし、「日本野球創世記」を著す

- 2010** 東尾 修 通算251勝、ライオンズのエース
江藤 慎一 史上初の両リーグで首位打者
古田 昌幸 都市対抗16回出場「マスター社会人」
- 2011** 落合 博満 史上初の三冠王を三度達成
皆川 睦雄 南海の黄金時代を支えたサイドスロー
- 2012** 北別府 学 広島3度の日本一に貢献
津田 恒実 速球を武器に“炎のストッパー”と呼ばれた
長船 駿郎 全日本アマチュア野球連盟の結成に貢献
大本 修 「アオダモ資源育成の会」を設立
- 2013** 大野 豊 80年代の広島黄金時代を支えた左腕
外木場義郎 完全試合を含むノーヒットノーラン3度達成
福嶋 一雄 小倉高のエースで夏の甲子園2連覇
- 2014** 野茂 英雄 トルネード投法で人気を博し日米で活躍
秋山 幸二 80、90年代を代表する後足強打の外野手
佐々木圭治 “大魔術”と呼ばれ日米で活躍したクロウザー
相田 暢一 “最後の早慶戦”の実現と戦後の野球復興に尽力
- 2015** 古田 敦也 ヤクルト一筋の日本を代表する名捕手
林 和男 日本リトルリーグ創設に尽力
村山 龍平 全国中等学校優勝野球大会を創設
- 2016** 斎藤 雅樹 11試合連続完投勝利の巨人のエース
工藤 公康 西武等3球団で日本一11回の“優勝請負人”
榎本 喜八 50～60年代を代表する“安打製造機”
松本 龍蔵 戦後の野球復興に貢献した国際派
山中 正竹 六大学最多48勝、パルセロナ五輪代表監督
- 2017** 伊東 勤 西武黄金期を支えた名捕手
星野 仙一 楽天を初の日本一に導いた“闘将”
平松 政次 「カミソリ・シュート」を武器に大洋で201勝
裕司 裕 アマの名審判で、審判指導者としても貢献
鈴木 美嶺 日本野球規則委員会で中心的役割を果たす
- 2018** 松井 秀喜 “ゴジラ”の愛称で親しまれたスラッガー
金本 知憲 1492連続試合全インニング出場の“鉄人”
原 辰徳 巨人監督で3度日本一、第2回WBC優勝監督
龍 正男 中京商で選手、指導者として春・夏全国優勝
- 2019** 立浪 和義 中日一筋、通算2480安打の名内野手
権藤 博 98年、監督として横浜を日本一に導く
脇村 春夫 プロ・アマ交流の礎を築いた高野連会長
- 2020** 田淵 幸一 阪神、西武で474本塁打を放った
前田 祐吉 慶大監督を経て、アジア野球連盟事務局長を務めた
石井 連藏 早大監督を務め、日米大学野球開催に尽力
- 2021** 川島 勝司 都市対抗3度優勝、アトランタ五輪代表監督
佐山 和夫 ノンフィクション作家、日本高野連顧問
- 2022** 高津 臣吾 日米通算313セーブを挙げた守護神
山本 昌広 最年長勝利を挙げた、中日一筋32年の200勝投手
松前 重義 首都大学野球連盟を設立、野球の国際化にも尽力
- 2023** A・ラミレス 2年連続でMVPに輝き、2000安打も達成
R・バース 阪神優勝の立役者となった最強助っ人
古関 裕而 時代を超える多くの応援歌を作曲
- 2024** 谷繁 元信 横浜、中日で通算3021試合出場の名捕手
黒田 博樹 日米通算200勝を挙げた広島のエース
谷村 友一 アマチュア審判員を経てプロでも活躍した名審判
- 2025** イチロー 日米通算4367安打
岩瀬 仁紀 1002登板、407セーブの中日の守護神
掛布 雅之 阪神日本一に貢献したマスタータイガース
富澤 宏哉 3775試合出場、後進の技術向上に貢献した名審判
- 2026** 栗山 英樹 日本ハム監督からWBC世界一の監督へ

野球の歴史

赤色の文字はアメリカや世界の野球の歴史です。

Baseball History ~世界との交流~

野球のはじまり

- 1845(弘化2) アレキサンダー・カートライトが今日の野球に直接つなげる規則を作る。この規則による最初の試合が1846年ニュージャージー州ホボケンで行われる。
- 1849(嘉永2) ニッカーボッカー・クラブがはじめてユニホームを着用。青色長ズボン、白ポロシャツ、麦わら帽子。
- 1857(安政4) アマチュアチームが集まり野球協会を作る話し合いを行い、9イニング制の採用を決定(それまでは21点先取)。
- 1858(安政5) 最初の野球協会(National Association of Baseball Players)誕生。
- 1863(文久3) ヘンリー・チャドウィックが記録法(ボックススコア)を考案。
- 1865(慶応元) 南北戦争の後、西部や南部にも野球が広がる。
- 1869(明治2) 最初のプロチーム、シンシナティ・レッドストッキングス誕生。
- 1871(明治4) 最初のプロ野球協会(National Association of Professional Baseball Players)ができ、5年間存続。

野球伝来から近代野球へ

- 1872(明治5) ホーレス・ウィルソンがベースボールを伝える。①
- 1876(明治9) 現在のナショナル・リーグが結成される。
- 1878(明治11) アメリカ留学から帰国した平岡 源が、わが国初の本格的野球チーム「新橋アスレチック倶楽部」を結成。
- 1894(明治27) 中馬 庚がベースボールを「野球」と訳す。
- 1896(明治29) 第一高等学校が横浜外国人チームに勝利し、野球人気が全国的に高まる。①
- 1901(明治34) 現在のアメリカン・リーグが結成される。
- 1903(明治36) ナ・リーグとア・リーグの間に協定が成立し、ワールドシリーズが始まる。早慶戦が始まる。
- 1905(明治38) 早大チームが初の米国遠征を行い、最新の野球技術を学んで帰国。①
- 1906(明治39) 応援の過熱により、早慶戦が中止となる。
- 1907(明治40) 慶大が初めて外国チーム(ハワイ・セントルイス)を招待し、有料試合を行う。①

夏の甲子園大会始まる

- 1915(大正4) 全国中等学校優勝野球大会(現在の夏の甲子園大会)が始まる。
- 1918(大正7) 鈴鹿 栄が少年野球用に軟式ボールを発明。
- 1919(大正8) ワールドシリーズでシカゴ・ホワイトソックスの選手が買収され、シンシナティ・レッズが勝ったとする事件(ブラックソックス事件)が起こる。
- 1920(大正9) 最初のプロチーム日本運動協会(芝浦協会)が誕生。関東大震災の後、関西へ移り宝塚協会となるが、1929年に解散。
- 1921(大正10) ケネソー・マウンテン・ランデイス判事が初代コミッショナーに就任し、ブラックソックス事件を解決。
- 1924(大正13) 全国選抜中等学校野球大会(現在の春の甲子園大会)が始まる。甲子園球場完成。
- 1925(大正14) 秋季より早慶戦が復活、東大の加盟により東京六大学リーグ戦始まる。
- 1926(大正15) 明治神宮野球場完成。
- 1927(昭和2) 都市対抗野球大会始まる。
- 夏の甲子園大会が初めてラジオで実況放送される。
- 1929(昭和4) 大リーグで背番号を採用する球団があらわれ、他チームにも広がる。早慶戦で天覧試合が行われ、東京六大学の全盛時代となる。
- 1931(昭和6) ルー・ゲーリッグら米大リーグ選抜チーム来日。
- 1932(昭和7) 文部省が「野球統制の訓令」を施行。
- 1933(昭和8) 大リーグのオールスターゲームが始まる。中京商業が夏の甲子園大会3連覇を達成。日本初のナイターが戸塚球場で行われる(早大二軍対早大新人戦)。

日本プロ野球の誕生

- 1934(昭和9) ベーブ・ルースら米大リーグ選抜チーム来日。①
- 1936(昭和11) 東京巨人、大阪タイガース、名古屋、東京セネターズ、阪急、大東京、名古屋金鯱の7球団により、日本職業野球連盟創立。
- 1937(昭和12) 西宮、後楽園両球場完成。
- 1943(昭和18) 戦争激化で学生野球は中止。
- 1944(昭和19) プロ野球も一時休止となる。

戦後の復興、2リーグ制始まる

- 1945(昭和20) 11月18日に神宮で全早大対全慶大を挙行。プロ野球も11月23日に東西対抗を行う。
- 1946(昭和21) 学生野球、社会人野球、プロ野球が復活。
- 1947(昭和22) ジャッキー・ロビンソン、初の黒人大リーグ選手となる。
- 1948(昭和23) 横浜ゲーリッグ球場(横浜スタジアム)でプロ野球の初ナイターが行われる。
- 1949(昭和24) サンフランシスコ・シーガルズ(3A)が戦後初のアメリカプロ野球チーム

■ 日本にベースボールが伝来

1872年に第一学区第一番中学のアメリカ人教師ホーレス・ウィルソンが生徒にベースボールを伝えた。翌年、開成学校と校名が変わり新校舎とともに立派な運動場が整備されると試合が出来るまでになった。



日本野球発祥の地モニュメント

2003年、東京神田の学生会館(開成学校があった場所)に建立された。
※ 同会館建替に伴い公開休止中



ホーレス・ウィルソン

■ 一高、横浜外国人チームに大差で勝利

1896年5月、一高(第一高等学校)は横浜在住の外国人チームとの試合に29-4で勝利。この勝利が新聞で報じられ、野球人気が全国的に高まった。



1896年 一高チーム

後列中央がベースボールを「野球」と訳した中馬 庚で、翌年には競技者向けの詳しい専門書を著した。

■ 日米野球、初勝利



1922年、大リーグ選抜チームを相手に、三田倶楽部(慶大OB)が9-3で日本勢初勝利。

1922年 日米野球サインボール



1934年 日米野球 両チーム集合写真

■ 1876年の日米野球

1876年、東京開成学校の生徒と、同校教師等の外国人による試合が行われ、34-11で外国人チームが勝利。記録に残る最初の国際試合。ウィルソンも3番レフトで出場。

FOREIGNERS.		R.	O.	JAPANESE		R.	O.
Mudgett, 2d b.	6	3	Ishido, 1st b.	2	2
F. Lacey, s. s.	4	2	Nomoto, l. f.	2	3
Wilson, l. f.	2	5	Hwogaina, s. s.	2	2
Denison, c.	7	1	Kusaborra, c. f.	1	4
Churchill, 1st b.	6	1	Tarukami, r. f.	1	2
O. Lacey, 3d b.	4	2	Motayama, 3d b.	2	2
Hebburn, p.	3	4	Awokle, c.	1	2
Stevens, r. f.	3	3	Kumi, p.	0	1
				Sasaki, 2d b.	0	3
Totals	34	21	Totals	11	21
Foreigners	5	1	0	2	7	12
Japanese	0	1	6	0	0	1
				Umpire, Mr. Van Buren.			

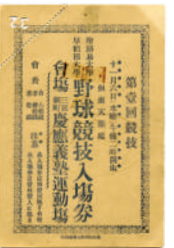
ニューヨーク・クリッパー紙記事

■ 早大渡米遠征、外国チームの来日

1905年、早大野球部が日本チームとして初の渡米遠征を実施。最新の技術や用具を持ち帰った。



アメリカでの早大チーム



慶大対ハワイ・セントルイス 入場券

1907年、野球試合を目的に来日した初の海外チームと、招いた慶大が対戦。日本初の有料試合となった。

■ ベーブ・ルース来日、プロ野球誕生

1931、34年の日米野球が大きな人気を集め、現在のプロ野球誕生につながった。



1934年 日米野球ポスター

1934年 日米野球ユニホーム
(上)大リーグ選抜
(下)全日本

- として来日。①
- 1950(昭和25) セントラル、パシフィックの2リーグ制が始まる。
 - 1951(昭和26) プロ野球にコミッショナー制度がしられる。
 - 1952(昭和27) 全日本大学野球選手権大会が始まる。
 - 1953(昭和28) テレビの野球実況放送が始まる。
 - 1959(昭和34) 6月12日、野球体育博物館(現・野球殿堂博物館)開館。
 - 1962(昭和37) 作新学院が、春夏甲子園大会で初の連続優勝。
 - 1965(昭和40) ヒューストンに初の屋根付球場(アストロドーム)建設される。
 - プロ野球新人選択会議(ドラフト)始まる。
 - 1969(昭和44) ア・ナ両リーグともに12チームに増え、東西6チームずつの地区別となる。
 - 10月10日、金田正一が通算400勝を達成。
 - 1973(昭和48) ア・リーグが指名打者(DH)制を採用。
 - パ・リーグが2シーズン制を採用。(1982年まで)
 - 巨人が9年連続日本シリーズ優勝。
 - 1975(昭和50) パ・リーグが指名打者制を採用。
 - 1977(昭和52) ア・リーグはさらに2チーム増え、14チームとなる。
 - 9月3日、王 貞治がハンク・アーロンの記録を破る通算756本塁打を達成。
 - 1983(昭和58) 6月3日、福本 豊がルー・ブロックの記録を破る通算939盗塁達成。
 - 1984(昭和59) ロサンゼルスオリンピックの公開競技で全日本チームは金メダル獲得。①
 - 1987(昭和62) 6月13日、衣笠祥雄はルー・ゲーリッグの記録を破る2131試合連続出場達成。
 - 1988(昭和63) 日本初の屋根付き球場東京ドームが完成し、野球体育博物館はドーム内に移転。
 - ソウルオリンピックの公開競技で全日本チームは銀メダル獲得。

野球の国際化

- 1992(平成4) パルセロナオリンピックから野球が正式種目となり、全日本チームは銅メダル獲得。
- 1993(平成5) ナ・リーグも14チームとなる。
- プロ野球にフリーエージェント制(FA)が導入される。
- 1994(平成6) ア・ナ両リーグともに東、中、西の地区別となる。
- 1995(平成7) 野茂英雄(ドジャース)が、ナ・リーグ新人王となる。
- 1996(平成8) アトランタオリンピックで全日本チームは銀メダル獲得。
- 1997(平成9) ア・ナ両リーグの交流試合が始まる。
- 1998(平成10) ナ・リーグが16チームとなり両リーグあわせて30チームとなる。
- 2000(平成12) シドニーオリンピックでプロアマ合同の全日本チームは4位に終わる。
- 佐々木主浩(マリナーズ)がア・リーグ新人王に輝く。
- 2001(平成13) イチロー(マリナーズ)がア・リーグ新人王・MVPに輝く。
- 福岡ドーム(1993年)、ナゴヤドーム、大阪ドーム(97年)、西武ドーム(99年)に続き、札幌ドーム完成。
- 2004(平成16) アテネオリンピックで日本代表は銅メダル獲得。
- イチロー(マリナーズ)がジョージ・シスラーの記録を破り、シーズン262安打を達成。
- 球団統合問題に端を発し、選手会が史上初のストライキを行う。
- 2005(平成17) セ・パ交流試合が始まる。
- アジアシリーズ初開催、日本(千葉ロッテ)が優勝。
- 2006(平成18) ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で王監督率いる日本代表が優勝。①
- 2007(平成19) セ・パ両リーグの上位3チームが日本シリーズ出場を争うクライマックスシリーズ始まる。
- 2008(平成20) 北京オリンピックで日本代表は4位となる。
- 2009(平成21) 第2回WBCで原監督率いる日本代表が連覇を達成。①
- 松井秀喜(ヤンキース)がワールドシリーズMVPに輝く。
- 2011(平成23) プロ野球が統一球を導入。
- 2013(平成25) 第3回WBCで日本代表はベスト4となる。
- 野球体育博物館が野球殿堂博物館に名称を変更。
- オリンピック競技復帰を目指し、世界野球ソフトボール連盟(WBSC)設立。
- バレンタインが日本プロ野球新記録のシーズン60本塁打を達成。
- 2015(平成27) 谷繁元信が野村克也の最多試合出場記録を破り、3021試合出場。
- 秋山翔吾がマーティンの記録を破り、シーズン216安打を達成。
- 2016(平成28) 6月15日、イチローはヒート・ローズの記録を破る日米通算4257安打達成。
- 2017(平成29) 第4回WBCで待ジャパンはベスト4となる。
- 2018(平成30) 大谷翔平(エンゼルス)がア・リーグ新人王に輝く。
- 2019(令和元) WBSCプレミア12で待ジャパンが初優勝。
- 2020(令和2) コロナ禍でプロ野球は開幕延期。
- アマチュア野球でも多くのリーグ、大会が中止、延期となり、東京オリンピックも延期となった。
- 2021(令和3) 東京オリンピックで待ジャパンが金メダルを獲得。①
- 2022(令和4) 佐々木朗希が13連続等三振の日本プロ野球新記録を達成し、史上16人目の完全試合を達成。
- 村上宗隆がプロ野球歴代2位の56号本塁打を記録し、史上8人目の三冠王となった。
- 2023(令和5) 第5回WBCで栗山監督率いる日本代表が3大会ぶりの優勝。①
- 2024(令和6) 第9回女子野球ワールドカップで待ジャパン女子代表が7連覇達成。①
- 大谷翔平(ドジャース)が史上初の50本塁打、50盗塁(50-50)を達成。
- 2025(令和7) 大谷翔平(ドジャース)が3年連続4度目のリーグMVPを受賞。



戦後の日米野球

終戦から4年後、戦後初の日米野球に3Aのサンフランシスコ・シールズが来日。以降も継続して開催され、日米プロ野球の交流の舞台となった。



1949年 日米野球 ポスター



1966年 ロサンゼルス・ドジャース オルストン監督 ユニホーム

侍ジャパンの活躍

2006年、新たな国際大会、ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)が開催。第1回大会で王貞治監督率いる野球日本代表が初優勝。2009年に原辰徳監督、2023年には栗山英樹監督のもと3大会で世界一となっている。

2013年、プロ・アマが「結束」し、すべての世代がひとつの野球日本代表となる「侍ジャパン」が誕生。トップチームを頂点とし、各世代の代表チームが活躍している。



WORLD BASEBALL CLASSIC 優勝トロフィー(2006、2009、2023年)

オリンピックと野球

公開競技での開催を経て1992年バルセロナ大会で正式種目となり、2000年シドニー大会からプロ選手も出場。2008年北京大会まで開催の後、2021年東京大会で復活し、次回は2028年ロサンゼルス大会で開催予定。



1984年 ロサンゼルス大会 優勝記念写真

1984年、ロサンゼルス五輪の公開競技として開催。若手社会人と大学生で臨んだ日本が決勝でアメリカを破り優勝。



2021年 東京2020 決勝戦ウイニングボール

アテネ大会の予選となった2003年アジア野球選手権大会 長嶋茂雄監督着用ユニホーム



2023WBC野球日本代表 大谷翔平選手ユニホーム



WBSC女子野球ワールドカップ 優勝トロフィー 2024年には大会7連覇を達成

2026(令和8)年 野球界のおもなスケジュール

- 3月 2026ワールド・ベースボール・クラシック(5日～)
- 第98回選抜高校野球大会(19日～)
- プロ野球開幕(27日～)
- 6月 第75回全日本大学野球選手権大会(8日～)
- 8月 第108回全国高校野球選手権大会
- 第97回都市対抗野球大会(26日～)

- 9月 第81回全日本軟式野球大会(18日～)
- 10月 日本シリーズ(24日～)
- 11月 WBSC U-23ワールドカップ(6日～)
- 未定 第22回全日本女子硬式野球選手権大会
- WBSC女子野球ワールドカップ グループステージ2026
- ※赤色表記は国際大会

